

外交手段でこそ

世界の中で日本が、人間の尊厳をどうリードしていくか。何を次の世代に伝えていくか。日本の『骨格』としての憲法9条と非核の思想こそ伝えるべきです。今、9条を変えては将来に禍根を残します。安倍晋三首相の9条改憲は、日本がせっかく手にしてきた、安定、安寧を失う危険性が大きいと思います。

早稲田大学名誉教授

毛里 和子さん

戦後の安寧支えた9条

安倍首相は、9条に自衛隊を明記するだけと言っています。しかし、自民党改憲案を見ると安倍首相たちは、2項を削除し、国防の軍隊をつくって、日本の安全保障をやるうとしています。安倍9条改憲を許せば、するずると行

ってしまいう危険があります。中国との関係で見ても、中国軍は200万人強です。兵器は最新のものになっていいます。武器大国と断言していい。軍事強国を公言しています。その中国と軍力で対峙すれば、最終的には核兵器を持つ

世界に非核発信

日本の安全を保障する有力な方法は、核兵器禁止条約が締結されたいま、世界的な非核のメッセージを発信することです。9条は、日本が悲惨な核戦争という高いコストを払って得た遺産なのです。多くの日本人は、広島と長崎の被爆、第五福竜丸の被ばく、その後の平和運動を通じて非核の思想を身につけ、血肉と化しています。

「被害者意識が強すぎる」と一部の人は言いますが、核兵器の非人道性を世界に広げるのが私たちの仕事です。

第2次世界大戦で、日本は負けると分かっていて、死ぬまでたたかうという本当に「恥ずかしい戦争」をしました。戦前を否定的にみると「自虐史観」と批判する人たちがいます。戦前の歴史の過ちをトータルに直視することは決して「自虐史観」ではありません。日本を正確に位置付けるために不可欠な作業です。

許すな 安倍9条 改憲



もうり・かずこ 1940年東京生まれ。専門は現代中国研究。日本現代中国学会理事長、「新しい日中関係を考える研究者の会」代表幹事などを歴任。著書は『日中漂流—グローバル・パワーはどこへ向かうか』など多数。

聞き手・写真 若林明